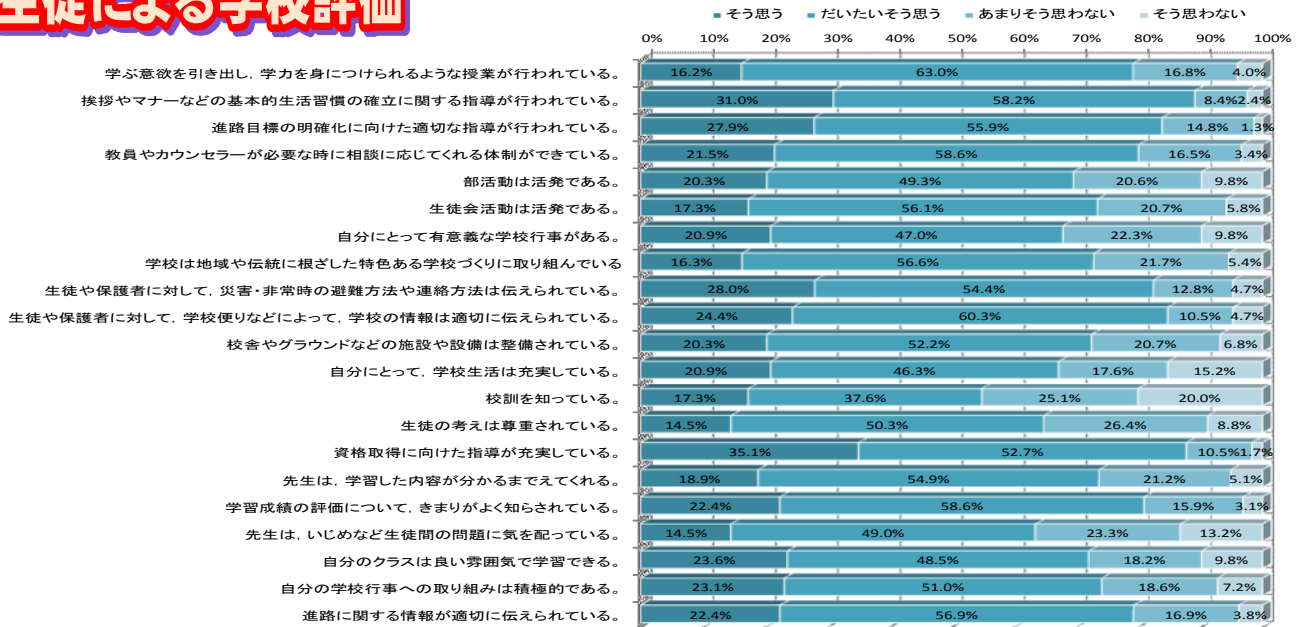


# 学校評価

宮城県鹿島台商業高等学校 発行  
 〒989-4104 大崎市鹿島台広長字空師前44  
 TEL 0229(56)2664 FAX 0229(56)2461  
 HP <http://kasimadai-ch.myswan.ne.jp/>

平成24年12月、教職員並びに全校生徒、保護者を対象に「学校評価アンケート」を実施しました。その結果がまとまりましたので、報告いたします。

## 生徒による学校評価



### ・回収状況

308名在籍で297名の回収があり、回収率は96.4%である。

### ・分析【肯定的な評価が、前年度比10%以上の評価があるもの】

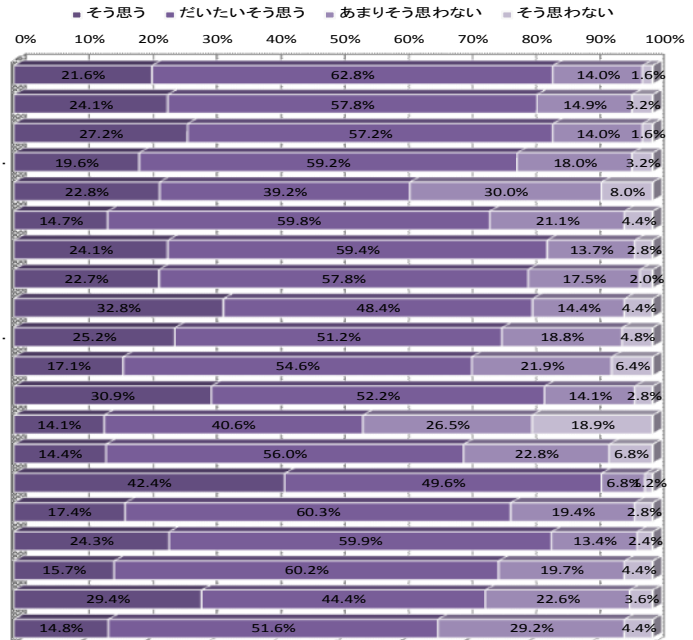
- 1 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。  
この項目は学習指導に関するものであり、学校にとって基本となる項目である。結果として、肯定的な回答が79.2%とかなり高い評価となった。前年度比でも11.4%の上昇であり、昨年度まで60%台であったことからすると大幅な上昇であり、先生方の努力の結果といえる。
- 2 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。  
この項目についても学校運営上重要な項目である。結果は肯定的回答が89.2%で上記の学習指導に関する項目に比べてもかなり高い評価であった。前年度比においても10.6%の上昇である。今年度の問題行動による生徒指導件数が半減していることが、この評価の結果を裏付けているといえる。
- 3 部活動は活発である。  
昨年度比13.7%の上昇である。今年度入学生から原則全員入部が大きく影響しているようだ。また、先生方の積極的な指導の結果といえる。
- 4 生徒会活動は活発である。  
昨年度比10.3%の上昇である。生徒会長のリーダーシップのもと、生徒会役員一人ひとりの活動が多くの子供の目についたことが影響していると思われる。また、生徒会担当の先生方をはじめ関係する先生方のご指導も大きく影響していると思われる。
- 5 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。  
昨年度比27.0%の大幅な上昇である。昨年度は、震災の影響により体育館やグラウンド等の施設が利用できなかったり、利用する上で制限があるなど不都合な状況にあった。そのため、肯定的な評価が低かったと考えている。本年度は体育館やその他の施設設備も復旧し不便無く利用できるようになり、加えてグラウンド等の整地などの対応もあり、肯定的な評価が70%台になったものと思われる。

### 【肯定的な評価が、前年度より減少したもの】

- 1 自分にとって、学校生活は充実している。  
今年度の肯定的評価は67.2%であり、昨年度比-2.6%の減少となった。しかし、一昨年度と比較すればプラスとなっている。とはいっても前年度比ではマイナスであり、生徒のためになる「充実した学校生活」とはどのようなものなのかを見据えながら学習指導・生徒指導等に臨むことが必要であると思われる。
- 2 学習成績の評価について、きまりがよく知らされている。  
昨年度比-0.9%の減少であった。しかし、肯定的評価は81.0%と8割を超えており、積極的に改善しなければならないという状況ではないと思われる。
- 3 自分のクラスは良い雰囲気在学习中。  
今年度の肯定的評価は72.1%であり、7割を超えている状況である。マイナス3.2%であるものの昨年度と同様に70%台であり心配される状況にないと思われる。

# 保護者による学校評価

- 生徒の学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。
- 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている。
- 生徒の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。
- 生徒や保護者に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制・部活動は活発である。
- 生徒会活動は活発である。
- 生徒にとって、有意義な学校行事がある。
- 学校は、地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。
- 生徒や保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。
- 生徒や保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。
- 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。
- お子さんの学校生活は充実している。
- 校訓は知っている。
- 学校は、生徒や保護者に対して、意見や要望などを聞く機会を設けている。
- 資格取得に向けた指導が充実している。
- 先生は、分かりやすい授業にすために工夫している。
- 学習成績の評価に関する規程が周知されている。
- 先生は、いじめなど生徒間の問題に気を配っている。
- 学校生活の様子を子どもと話題にする。
- P T A 活動は活発である。



## ・回収状況

308名在籍で251名の回収があり、回収率は81.5%である。

## ・分析【肯定的な評価が、前年度比10%以上の評価があるもの】

- 1 お子さんの学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。  
保護者の評価も生徒同様に肯定的な回答が高く84.4%の評価となった。前年度比でも10.4%の上昇であり、昨年度の70%台から80%台への大幅な上昇となった。先生方の指導を保護者が認めていることをあらわしていると考ええる。
- 2 学校として、生徒会活動は活発である。  
昨年度比10.9%増となった。生徒会の活動が具体的に保護者の目につくものとなっている結果と考える。生徒会長はじめ生徒会役員活躍並びに関係の先生方のご努力がこの結果につながったと思われる。
- 3 お子さんにとって、有意義な学校行事がある。  
昨年度比10.3%増となった。肯定的評価は83.5%のまで上昇している。上記の生徒会活動への評価と連動したものであると考える。学校行事に取り組んできた先生方の努力が高い評価につながったものと考ええる。
- 4 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。  
生徒の評価同様大きな上昇である。前年度比14.1%増の71.7%となった。要因は震災からの復旧と思われる。しかし、一昨年度との比較では0.4%増であり平均的な評価に戻ったと思われる。
- 5 学校への意見や要望などを聞く機会を設けている。  
昨年度比11.2%増の70.4%であった。大幅な上昇のようであるが、一昨年度は67.2%であり、大幅とまでは言えない。しかし、7割の保護者が肯定的な評価であることは学校としての対応を認めて頂いていると考えたい。

## 【肯定的な評価が、前年度より減少したもの】

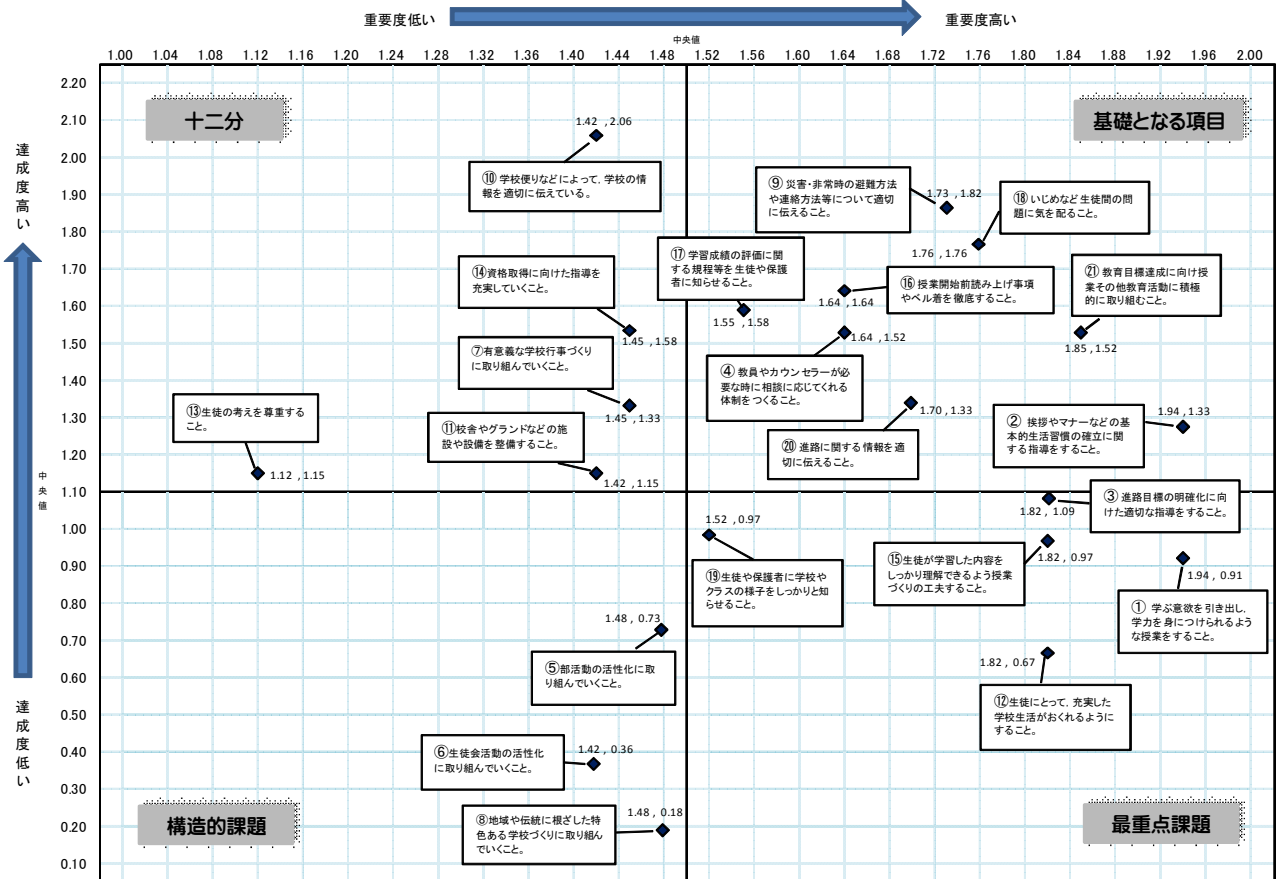
- 1 資格取得に向けた指導が充実している。  
前年度比12.5%の大幅減少となった。ただし、昨年度の肯定的な評価が94.2%ということであり、本年度は77.7%である。大幅減少ではあるが、8割に近い保護者からは肯定的な評価を得ており、このことで資格取得に向けた指導について危機感をもつことはないと考ええる。しかし、昨年度を大きく下回っていることをしっかりと受け止めて、資格取得に向けた指導に取り組んで行く必要がある。
- 2 P T A 活動は活発である。  
昨年度比0.3%減である。減少幅は小さく、ここ数年間の評価をみてもP T A活動に対する評価は大きな変化はない状況である。ただし、実際のP T A活動は活発とは言えない状況であり、多くの保護者に総会をはじめ学年P T A、公開授業などに足を運んでもらう工夫が重要と思われる。

全体として、生徒・保護者の評価は昨年と同様に肯定的な結果となった。次年度も肯定的評価が多くなるよう、学習指導や生徒指導を中心にしっかりと取り組むことが重要である。また、肯定的評価が前年度から減少したものとしては、「資格取得に向けた指導の充実」(保護者)が大幅減となっている。しかし、肯定的評価そのものは77.7%であり、他のアンケート項目と比較しても高い評価とはなっている。大幅減については、しっかりと受け止め、昨年度の評価に近づくよう努力する必要があると考える。なお、自由記述において「天候などの影響による交通機関の乱れに対する対応」について学校として遅いとの意見が多かった。改善を要するものと考ええる。

# 教職員による自己評価

本年度、教職員の学校評価は前年度までの50項目以上に及ぶ評価項目を変え、生徒や保護者への評価項目に従うかたちで設定し整合性を図った。なお、昨年度までの「重要度・達成度」というかたちはそのままとしてアンケートを行った。

下表について、重要度・達成度の評価結果に従い数値化して、それぞれの最低と最高の中央を中央値として表を作り、その表にそれぞれの項目について、重要度と達成度の交わる点をとった。



## 「基礎となる項目」の領域について

重要度が高く、達成度も高いものである。これらの項目については、次年度以降も達成度を高めていくことが大切である。

## 「最重点課題」の領域について

重要度は高いが、達成度が高くないものである。個別に項目をみると、「1 学ぶ意欲を引き出す・・・」「15・・・授業づくりの工夫」があり、学習指導に関する項目が見られる。生徒や保護者からの評価結果では肯定的評価は高いが、教職員の評価では自己評価ということもあり、厳しく評価している結果と考える。

## 「構造的課題」の領域について

重要度が低く、達成度も低いものである。この領域における個別の項目の位置をみると重要度が大幅に低いものではなく、中央に近い位置にある。このことは、重要度が低いと考えるべきでなく、重要であると考えられるべきである。本校の生徒の実態として、達成度を上げていくことが難しい項目ではあるが、部活動や生徒会活動の活性化は、学校をよりよくするためには重要であり、達成度を上げることは大切なことである。

## 「十二分」の領域について

重要度は低い、達成度は高いものである。この領域における個別の項目の位置をみるとひとつの評価項目を除いて、「構造的課題の領域」同様に中央に近い位置にあり、重要度は低いとはいえない。資格取得、学校行事への取り組み、施設設備の整備などの項目であり、さらに達成度を上げることが求められる。

重要度の最も低い評価項目である「生徒の考えを尊重すること」については、本校の実態を踏まえた結果が現れていると思われる。最も重要であるとい評価項目は「挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導をすること」である。ことから分かるように、生徒指導の徹底が本校にとっての最重要課題であるとする先生方の共通認識があり、このことから生徒の考えを尊重するという考え方の重要性が低くなっていると思われる。しかし、生徒の考えを尊重することはやはり重要なことであり、重要度が中央に近くなるよう対応していく必要があると考える。